

# 作業療法だより(9)

平成19年10月

今回が10回目となる当院リハビリテーションセンター作業療法だより。今月号より当院作業療法が、患者様の身体評価(検査)に用いている検査器具を紹介します。第1弾の今回は両腕の動作能力(特に動きのスピード)を客観的に、かつ迅速に把握できる「簡易上肢機能検査:STEF」を紹介します。

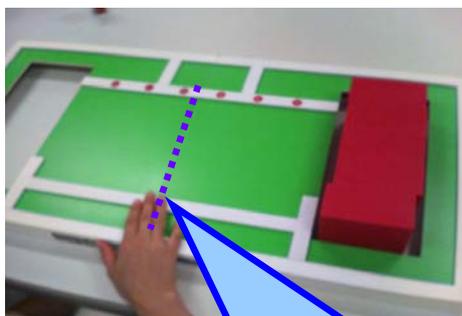
## 1. 簡易上肢機能検査(simple test for evaluating hand function:STEF)

簡易上肢機能検査(以下STEF)は、10種類(右図)のテストからなり、それぞれ大きさや形の異なる物品を把持して移動させるという一連の動作に要した時間をストップウォッチで計測し、決められた点数(1~10点)を加えて、右手と左手との差を左右別に合計点数を算出する検査器具です。また参考値との比較も可能です。

また定期的に検査をすることで、作業療法の訓練成果を測定することも出来ます。



検査に用いる物品



検査開始時の手の位置  
(点線上を目安にする。)

- ◆ この検査は座位姿勢または立位姿勢のどちらでも検査が可能です。よって、座位もしくは立位のどの姿勢で作業活動が多いかを考慮して、患者様の生活に即した姿勢で検査を行います。

- ◆ 検査実施は作業療法士が患者様の動作を分析し、動作が制限される原因を見極めます。神経や筋または視力・視野・知能、もしくは脳卒中特有の高次脳機能障害なども把握できます。



作業療法では、患者様のどの部位が障害を受けてしまい、原因は何であるのか、また日常生活動作や生活関連動作にどのような支障があるのかを、他職種(理学療法士や言語聴覚士など)と連携して、患者様に快適な生活を再獲得して頂けるように、心掛けています。

色々な大きさの  
把持対象物